

関西学院大学 研究成果報告

2020年 5月 30日

関西学院大学 学長殿

所属： 社会学部
職名： 教授
氏名： 稲増一憲

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input type="checkbox"/> 特別研究期間 <input type="checkbox"/> 自由研究期間 <input checked="" type="checkbox"/> 大学共同研究 <input type="checkbox"/> 個人特別研究費 <input type="checkbox"/> 博士研究員 ※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。
研究課題	社会的行動と道徳・規範の関連についての心理学研究
研究実施場所	関西学院大学社会心理学研究センター
研究期間	2018年 4月 1日 ～ 2020年 3月 31日 (24ヶ月)

◆ 研究成果概要 (2,500字程度)

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

日本社会における道徳基盤ならびにイデオロギーについての基礎研究の成果が、査読付き学術誌への掲載という形で結実した。具体的には、道徳基盤理論に関する国際研究プロジェクトで用いられているMoral Foundations Questionnaire (MFQ) について、日本の人々を対象とした研究に用いる際の妥当性を検証した論文(村山綾・三浦麻子 2019 日本語版道徳基盤尺度の妥当性の検証—イデオロギーとの関係を通して— 『心理学研究』 90(2), 156-166)および、日本人の政治的イデオロギーの母集団分布をベイズ統計モデリングによって推定した論文(清水裕士・稲増一憲 (2019) 政治的態度の母集団分布の形状を推定する—統計モデリングアプローチ— 理論と方法, 34, 113-130.)である。さらには、この検討が方法論上の新たな研究の発展へとつながり、この成果についても、査読付き学術誌への掲載されている(稲増一憲・清水裕士・三浦麻子(2019) 評定尺度法の反応ラベルによる影響の補正：公的組織への信頼に関する社会調査を題材として 『社会心理学研究』 35(1),1-18)。

さらには、道徳基盤ならびにイデオロギーと関連する人間の特性の検討、人間が持つ不平等回避傾向について統計モデリングを行い、この傾向と道徳基盤・イデオロギーとの関連を検討した。この結果については2019年度の日本選挙学会にて発表された(清水, 2019)。この成果に基づき、合議による「分配の正義」のメカニズム：統計モデリングアプローチ(研究代表者：清水裕士、研究分担者：稲増一憲)として科学研究費基盤研究(C)に申請を行い、採択された(20K03322)。

また、道徳基盤やイデオロギーと視覚等の人間の基礎的な認知メカニズムとの関連について、実験室における認知実験を用いて検討した。この研究テーマに関連したレビュー論文は、文学部総合心理科学研究室の紀要において発表されている(白井理沙子・小川洋和 (2020). 直観的な道徳判断における知覚・認知処理の役割, 関西学院大学「心理科学研究」, 46. 15-22)。

加えて、道徳とイデオロギーの日本社会における具体的な表象のあり方について、検討を行った。具体的には、日本政府の集団謝罪、第三国同士の領土紛争への態度など、外交・安全保障上の課題について、これらとイデオロギーがどのような関連を持つかを、Web調査実験によって検討した。この成果については、査読付き英文誌に投稿中(R & R)である。

さらには上記の研究業績に加えて、学外者を招いたセミナーを定期的実施することで、社会心理学とその周辺領域である認知心理学・文化心理学・政治学・計算社会科学等の最先端の研究者と知見を交換し、学際共同研究の素地を形成した。

2018/5/26 「放射能リスクへの態度は変わったのか」(池田功毅氏・中京大学, 中西大輔氏・広島修道大学)

2018/7/26 「サッカーとナショナリズム」(小林哲郎氏・香港城市大学)

2018/11/9 「ビッグデータと社会・文化心理学」(浜村武氏・Curtin University)

2019/7/26 「夏だ! 調査だ!! 実験だ!!! (第36回政治コミュニケーション研究会との共催)」(小林哲郎氏・香港城市大学, 稲増一憲・関西学院大学)

2019/11/22 「維新支持の分析」(善教将大・関西学院大学)

2020/01/06 「社会的ジレンマ実験プログラムの開発と実践: oTreeを用いて」(後藤晶氏・明治大学)

2020/02/21 「計算社会科学による人間・社会のわかり方」(笹原和俊氏・名古屋大学)

また、1年に2回KG-RCSP合同ゼミを行い、研究代表者・分担者の研究室に所属する大学院生が研究発表を行うとともに、ゲストスピーカーを招いて招待講演を行った。

2020/03/06 招待講演: 心理学における計算論モデリングの可能性および注意点(片平健太郎氏) ※新型コロナウイルス感染症拡大により、招待講演は2020年8月4日(オンライン開催)に延期

2019/7/31 穢れ忌避について(北村英哉氏・東洋大学)

2019/7/31 視空間イメージ操作研究への挑戦: 多面的視点のススメ(武藤拓之氏・大阪大学)

2018/8/11 内集団バイアス研究の古典から最先端の学際研究まで: 私の研究歴と共に(三船恒裕氏・高知工科大学)

これらの活動は関西学院大学社会心理学研究センターのプレゼンスを高めるとともに、大学院生の育成にもつながっており、査読付き学術論文誌への論文掲載、学会賞の獲得、学術振興会特別研究員への採用が、それぞれ複数回実現されている。その一例として、2019年度の申請に基づき、2019年には小林穂波が日本基礎心理学会第38回大会「優秀発表賞」、(2019年度の申請に基づき) 2020年には日本社会心理学会「若手研究者奨励賞」を中越みずき、水野景子、柏原宗一郎の3名が受賞した。

以上

提出期限: 研究期間終了後2ヶ月以内

※個人特別研究費: 研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員: 期間終了まで

提出先: 研究推進社会連携機構(NUC)

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。